



有馬ゼミの学生

平成十六年十二月十日（金）から十一日（土）にかけて、東京の国立オリンピック記念青少年総合センターで行われた平成十六年度全国学生証券ゼミナール大会で、本学経済学部の有馬敏則ゼミナールが、第一テーマ「インフレターゲットの是非」部門で優秀ゼミナールに選出されるといふ快挙を成し遂げた。

有馬ゼミ

全国学生証券ゼミナール
大会で優秀ゼミに選出される

賞状と優勝カップが授与されたが、賞状には「貴団体は平成十六年度『証券ゼミナール大会』において、優秀な論文を作成し、且つ積極的な姿勢で討論に参加し議論の発展に貢献したことを称えここに賞します 全国証券研究学生連盟委員長 石井純平」と記されている。

全国学生証券ゼミナール大会は昭和五十七年から年一回十二月に開催され、今回が第二五回大会に当たる伝統のある討論大会である。表彰制度は平成十五年度から導入され今年が二年目である。

昨年はもう一步のところで同一部門内で慶応大学の池尾ゼミナールが優秀ゼミの表彰を受け残念な思いをした。今年こそはと、平成十六年五月から指導教授とゼミ生が一丸となって大会参加論文作成に取り組んできた。その下準備として六月と十一月、大阪で開催された関西学生証券ゼミナール春季大会と秋季大会に参加・討論して全国大会に備えた。

平成十六年度全国学生証券ゼミナール大会には七つのテーマに全国の大学から一一六のゼミナールと研究会、合計五六九名が参加して行われた。それぞれのテーマは「インフレターゲットの是非」

「銀行に将来性はあるか否か」「年金制度はどう変わるべきか」「証券販売チャネルの拡充はどのような影響をもたらすか」「株主価値経営の是非」「証券取引所はどのように再編されていくべきか」「中国経済は脅威か否か」というものであった。

全国学生証券ゼミナール大会は五月にその年のテーマ（例年六〜七テーマ）が公表され、各大学のゼミや研究会が一斉に論文作成に取り掛かる。有馬ゼミの場合、各ゼミ生が参加テーマを選択し、参考資料・文献を収集し、論文の構成を決める。各ゼミ生の論文のノルマは四千字以上で、夏休み中が書入れ時である。九月末に教員のチェックを経て最終論文を作成し、十月末までに討論相手大学に送付する。その後質問書・回答書を送付しあい大会に備える。

今年の大会は第一日目、十二時三十分から十七時四十五分までと十八時四十五分から二十一時まで討論を行った。第二日目は、九時から十二時三十分まで討論を行い、十三時四十五分から十五時まで各テーマの総まとめと表彰式が行われた。また第一テーマの指導講師は、斎藤美

彦独協大学経済学部教授が担当された。有馬ゼミは二十五年間、全国学生証券ゼミナール大会やインターゼミナール大会に参加しており、来年も健闘を誓っている。

（経済学部教授）
有馬敏則

